

令和元年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府1-56(政策18-施策①))

政策名	迎賓施設の適切な運営					
施策名	迎賓施設の適切な運営					
達成すべき目標	「観光先進国」実現のため、迎賓館の「一般公開」及び「特別開館」を実施し、迎賓施設への理解を促進する。					
施策の概要	<p>【施策の概要】</p> <p>国の迎賓施設として、海外の賓客に対し安全・快適な施設の提供が出来るよう迎賓施設の管理・運営を行う。また、「迎賓館の公開・開放」は安倍内閣の掲げる重要施策である「観光先進国」のうち、「公的施設の公開・開放」においてシンボリックの意味合いを持つことから観光の呼び水としての役割を果たすため、接遇に支障のない範囲で可能な限り通年で一般公開を実施するとともに、迎賓館の貸出を行う「特別開館」を実施する。</p> <p>【令和元年度に実施した具体的取組】</p> <p>○平成30年度に引き続き、接遇等に支障のない範囲で可能な限り通年で一般公開を実施、赤坂迎賓館では279日間、京都迎賓館では257日間公開した(平成30年度の公開実施日数は、赤坂274日間、京都248日間)。</p> <p>○一般公開の更なる魅力向上を図るため、季節や周年等に応じた特別企画等を実施し、満足度の向上を図った。</p> <p>○Twitter等を用いた一般公開の広報のため、新たに制作した迎賓館PR動画(日本語及び英語)を活用。</p> <p>○特別開館について、令和元年度は使用希望はあったものの、開催時期等の利用要件を満たす案件がなく未実施となったが、案件発掘のためにあらゆる機会を捉え、民間事業者に向けた制度説明等、特別開館の情報提供に努めた。</p> <p>【赤坂】</p> <p>○初めての年始の公開企画として令和2年1月1日～3日に庭園無料一般公開を実施。また、祝賀御列の儀で使用されたオープンカーを令和元年11月～令和2年1月まで展示。【天皇陛下御即位慶賀行事】</p> <p>○迎賓館所有の古楽器であるエラールピアノを使用した初めての演奏会付参観を14回実施。</p> <p>○館内で初となる飲食(アフタヌーンティー)付参観を3回実施。</p> <p>○迎賓館を貸し切って行う特別ガイドツアーを令和元年9月に2日間実施。</p> <p>○季節等に応じたイベントとともに夜間公開を15日間実施。</p> <p>○参観料を変更した特別展を令和元年7～9月、令和2年1～3月に実施。</p> <p>【京都】</p> <p>○迎賓館にゆかりのある講師が日本の伝統技能や文化に関する講演やガイドツアーを行う「京都迎賓館文化サロン」を3日間実施した。</p> <p>○通常非公開の部屋の公開や通常参観とは異なる体験を含む特別ガイドツアーを20日間、迎賓館を貸し切って行う特別ガイドツアーを8日間、季節等に応じた特別企画とともに夜間公開を6日間実施した。</p> <p>○天皇陛下御即位慶賀行事として祝賀御列の儀で使用されたオープンカーを令和2年1～3月まで展示。また、令和最初の天皇誕生日となる2月23日に合わせ、オープンカーの無料公開を実施した。</p> <p>○令和2年3月にスペイン語を加えた6箇言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語およびスペイン語)対応の参観アプリをホームページや館内で紹介・周知することで、積極的な活用促進を図り、京都迎賓館への理解深化に加え、一般公開の魅力向上に努めた。</p>					
	施策の予算額・執行額 (単位:百万円)	区分	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算の状況	当初予算(a)	1122	1,145	1,101	1,085	
		補正予算(b)	-	-	-	-
		繰越し等(c)	100	-	-	-
		合計(a+b+c)	1222	1,145	1,101	-
執行額	1091	985	1,075	-		
施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定) 観光立国推進基本計画(平成29年3月28日閣議決定)					

区分	主要な指標	測定指標	施策の実績・進捗状況					達成状況		
			基準値	目標値	年度ごとの実績値					
			30年度	令和元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
□	1. 迎賓館赤坂離宮の一般公開における一日当たり参観者数の平均		1891	1891	-	4092	2220	1891	1796	○
			【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】							
			平成28年3月30日に決定された、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「観光は真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光先進国」の実現に向け、「赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、「観光の呼び水」とする」と示され、迎賓館の公開・開放が、そのシンボルと位置付けられているところ。							
			平成28年4月より、通年公開を開始。接遇及び特別開館との兼ね合いから公開可能日数が変化することから、前年度(平成30年度)に引き続き、一日当たり参観者数の平均を測定指標とし、前年度(平成30年度)の数値を基準値として設定した。							
□	2. 京都迎賓館の一般公開における一日当たり参観者数の平均		[自由参観方式] 480	[自由参観方式] 480	-	[自由参観方式] 1,064	[自由参観方式] 748	[自由参観方式] 480	[自由参観方式] 394	△
			[ガイドツアー方式] 279	[ガイドツアー方式] 279		[ガイドツアー方式] 615	[ガイドツアー方式] 405	[ガイドツアー方式] 279	[ガイドツアー方式] 294	
			【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】							
			平成28年3月30日に決定された、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「観光は真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光先進国」の実現に向け、「赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、「観光の呼び水」とする」と示され、迎賓館の公開・開放が、そのシンボルと位置付けられているところ。							
			平成28年4月より、通年公開を開始。接遇及び特別開館との兼ね合いから公開可能日数が変化することから、前年度(平成30年度)に引き続き、一日当たり参観者数の平均を測定指標とし、前年度(平成30年度)の数値を基準値として設定した。							

測定指標	定量的指標	3. 迎賓館赤坂離宮一般公開における参観者数のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合	基準値	目標値	年度ごとの実績値				達成状況	
			30年度	令和元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	□
			1.90%	10%以下	-	2.80%	2.90%	1.90%	2.60%	
【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 平成28年3月30日に決定された、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「観光は真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光先進国」の実現に向け、「赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、「観光の呼び水」とする」と示され、迎賓館の公開・開放が、そのシンボルと位置付けられているところ。 平成28年4月より、通年公開が開始されたことから、アンケートを実施し、公開の実施方法等の分析を行うことがより良い一般公開の運営につながると考えられることから当該測定指標を設定した。										
測定指標	定量的指標	4. 京都迎賓館一般公開における参観者数のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合	基準値	目標値	年度ごとの実績値				達成状況	
			30年度	令和元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	□
			2.80%	10%以下	-	4.20%	3.60%	2.80%	1.70%	
【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 平成28年3月30日に決定された、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「観光は真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光先進国」の実現に向け、「赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、「観光の呼び水」とする」と示され、迎賓館の公開・開放が、そのシンボルと位置付けられているところ。 平成28年4月より、通年公開が開始されたことから、アンケートを実施し、公開の実施方法等の分析を行うことがより良い一般公開の運営につながると考えられることから当該測定指標を設定した。										
測定指標	定量的指標	5. 特別開館HPの閲覧数	基準	目標	施策の進捗状況(実績)				達成状況	
			30年度	令和元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	△
			163,000	前年度以上	-	60,100	36,992	163,000	139,000	
【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 平成28年3月30日に決定された、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「観光は真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光先進国」の実現に向け、「赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、「観光の呼び水」とする」と示され、迎賓館の公開・開放が、そのシンボルと位置付けられているところ。 「開放」にあたる「特別開館」は国有財産の積極的利用にあたることから、「特別開館」に対する周知度を測定する為に当該測定指標を設定した。										

参考指標	1. 迎賓館赤坂離宮の一般公開HPの閲覧数	実績値				
		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
		360,000	5,100,000	1,600,000	2,580,000	2,500,000
参考指標	2. 京都迎賓館の一般公開HPの閲覧数	実績値				
		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
		5,750	1,020,000	589,000	606,000	568,000
参考指標	3. 「接遇」に関するHPの閲覧数	実績値				
		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
		2,500	3,400	1,360	175,000	97,000
参考指標	4. 外国人参観者数	実績値				
		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
		-	3,253	8,469	14,788	14,030

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ③ 相当程度進展あり (判断根拠) 測定指標1、3、4については目標を達成したが、主要な指標である2及び5について目標を達成していないため、上記判断とした。
	施策の分析	【測定指標の観点からの分析】 ○測定指標1、3、4については目標を達成した。 ・参観者のニーズが高い季節等に応じた特別企画の実施や、30ページほどのフォトガイドブックの配布、参観アプリ、デジタルサイネージの設置などの一般公開の魅力向上の取組が主要な要因として考えられる。 ○測定指標2及び5については未達成となった。 ・測定指標2については、参観実施日数が前年度に比べ多くなり参観者が分散したことや、通年公開4年目となり、さらに参観者数が落ちてきたことに加え、年明け以降、特に令和2年3月(自由参観方式)においては、新型コロナウイルスの感染拡大の対策として事前予約者のみ受入としたことや同予約者においてもキャンセルが相次いだことが大幅な参観者減に繋がり、目標未達成の要因となったと考えられる。 ・測定指標5のHPについては、特別開館においても実施4年目となり、新たに特別開館という利用を検討するユーザーが減少したと想定されることが、目標未達成の要因となったと考えられる。 【外部要因等事前に想定できなかったことにより実績に与えた影響】 前年度に比べ接遇日程が少なく、参観実施日数が多くなったため、参観者が分散した。 年明けからの新型コロナウイルスの感染拡大の影響により大幅に参観者が減少した

<p>次期目標等への 反映の方向性</p>	<p>【次期の施策の方向性について】 引き続き推進</p> <p>【次期の測定指標の考え方について】</p> <p>○測定指標1、2については、目標の設定を見直す。 ・通年公開開始後、年を経るごとに参観者数の減少が見られる中、一般公開の更なる魅力向上を図るため季節等に応じた新たな特別企画等を実施した。参観者が快適に参観できるよう混雑度の緩和等を考慮し、更なる満足度の向上を図り、今後は実態に合った参観者数を目標値とする。 ○測定指標3、4、5については、引き続き目標の達成に努めることとする。 ・これまで順調に実績が推移しているため、測定指標は妥当であると考えられ、引き続き参観者のニーズに応じた一般参観や特別開館HPでのユーザーに分かりやすい情報提供に努めてまいりたい。</p> <p>【根拠とした統計・データ等】</p> <p>—</p>		
<p>学識経験を有する者の 知見の活用</p>	<p>—</p>		
<p>政策評価を行う過程において 使用した資料その他の情報</p>	<p>通年公開(赤坂、京都)の不满割合: アンケート結果</p>		
<p>担当部局名</p>	<p>迎賓館</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>令和2年8月</p>